

第 31 回東海川崎病研究会

日 時：2011 年 6 月 11 日（土）14 時 30 分～17 時 10 分

場 所：愛知県医師会館 地下 1 階 「健康教育講堂」

当番幹事：原 紳也（トヨタ記念病院）

1. 開会の辞

トヨタ記念病院 小児科 原 紳也

2. 一般演題

■座長：あいち小児保健医療総合センター 循環器科 馬場礼三

① 川崎病様膜状落屑を認めた *Yersinia pseudotuberculosis* 菌血症の 6 歳女児例

¹⁾ 豊田厚生病院 小児科, ²⁾ 岡山県環境保健センター

長谷川行子¹⁾, 加納孝真¹⁾, 大萱俊介¹⁾, 伊藤 剛¹⁾, 近藤知子¹⁾, 沼田真一郎¹⁾,
梶田光春¹⁾, 中嶋 洋²⁾

症例は 6 歳女児。発熱・下痢・腹痛あり，第 5 病日に全身掻痒感・褐色尿を認め当院を紹介受診。WBC 9,000/ μ l, CRP 6.44mg/dl と上昇を認め，CTX 100mg/kg/day で治療したが解熱せず，MEPM 60mg/kg/day へ変更した。血液培養より *Yersinia pseudotuberculosis*（以下 Yp）1 群が分離された。第 10 病日に解熱し，第 13 病日に手指先から膜様落屑を認めた。追加の病歴聴取で祖母宅井戸水の生水飲用が判明した。Yp は川崎病の鑑別として重要な疾患であり，近辺地域の発症は稀であるので文献的考察を含め報告する。

② エルシニア感染症を契機に発症した川崎病の 2 例

聖隷浜松病院 小児科

北澤宏展，大前隆志，上島洋二，寺西顕司，横田卓也，岡西 徹，大呂陽一郎，
藤田直也，武田 紹，中畷八隅，松林里絵，榎日出夫，森 善樹，松林 正

【症例 1】3 歳女児。胃腸炎と発熱の第 5 病日に川崎病の診断で入院した。第 7 病日に免疫グロブリン大量療法 (IVIG) を行ったが解熱せず，第 10 病日に血漿交換療法を行った。【症例 2】5 歳女児。胃腸炎と発熱のために入院した。第 7 病日に川崎病と診断し，IVIG を行い一旦解熱したが，第 12 病日に再発熱しステロイドパルス療法を行った。エルシニア感染症に伴う川崎病は症状が非典型的で，IVIG 不応であるものが多い。

③ 乳児の川崎病におけるBCG接種部位を用いた診断基準（案）の検討

トヨタ記念病院 小児科

牛田 肇, 原 紳也, 山本英範, 音羽奈保美, 伊藤祐史, 鈴木高子, 会津研二,
山本ひかる, 木戸真二, 奥村直哉, 岡田純一

乳児期の川崎病では主要症状のうち頸部リンパ節腫大の出現頻度は他に比べて低く, また BCG 接種部位の発赤は特異的な症状であるが, 接種後約 1 年間に限られるため参考条項とされている. 今回我々は 1 歳未満の BCG 接種者で頸部リンパ節腫大に代わり BCG 接種部位の発赤を用いた新しい診断基準を考案し診断病日, 治療開始日など, 1 歳未満の乳児 15 例について後方視的に検討したので文献的考察を交え報告する.

■座長: 岡崎市民病院 小児科 瀧本洋一

④ 当科における過去 5 年間の川崎病 124 例の検討 ～投与前群馬スコアと γ グロブリン投与量の関係について～

名古屋市立西部医療センター 小児科

清水正巳, 角田優子, 林 直史, 水野なずな, 佐野ちひろ, 村井宏生, 桜井暁子,
神岡直美, 濱嶋直樹, 福田純男, 鈴木 悟

当科に過去 5 年間に川崎病で入院し, γ -gl で治療した小児 124 例中, 除外症例 4 例を除いた 120 例で, 投与前群馬スコアと γ -gl 投与量の関係を検討した. 群馬スコア 4 点以下で初回 γ -gl 不応率 18.7% (14/75), 5 点以上 46.7% (21/45), 8 点以上 83.3% (5/6) であった. γ -gl 不応の症例 35 例中, 26 例は total4g/kg までの γ -gl で治癒したが, 9 例は 5 g/kg 以上要し, うち 3 例 (群馬スコア 6・7・9) に冠動脈異常がみられた. 群馬スコア高値かつ初回不応の症例は冠動脈予後不良であった.

⑤ 川崎病急性期の血清脂質の変化について

岡崎市民病院 小児科

長井典子, 鬼頭真知子, 谷口顕信, 細川洋輔, 江見美杉, 松沢麻衣子, 辻 健史,
加藤 徹, 近藤 勝, 瀧本洋一, 早川文雄

川崎病の急性期における血清脂質の変化を検討した. HDL は治療前の day5 に低下していたが, 治療開始から遅れて 2 日後に最低値を取った. 重症群の方が HDL は有意に低かった. HDL と Alb とは良好な相関を示すが, HDL の方が病初期には鋭敏な変化だった. T-CHO, TG は HDL ほど明確な特徴を示さなかった.

⑥ 重症川崎病に対する血漿交換療法

名古屋第二赤十字病院 小児科

岩佐充二, 横山岳彦, 畔柳佳幸, 後藤芳充

3. 特別講演

■座長：トヨタ記念病院 小児科 原 紳也

『重症川崎病に対する新たな治療戦略』

群馬大学大学院医学系研究科 小児科学分野 助教 小林 徹

4. 閉会の辞

名古屋第二赤十字病院 小児科 岩佐充二